

選ばれた4成分で速く効く、長く効く!

水稻用一発処理除草剤



さまざまな除草のニーズに、**バツチ** お応えします!

SU抵抗性雑草、
難防除雑草も防除したい!

省力除草がしたい!



一発処理で
しっかり効かせたい!

水稻へ安全な
除草剤を使いたい!

作用機作の異なる4つの成分が、高いパフォーマンスを発揮します！



ピラクロニル
オキサジクロメホン
イマゾスルフロン
プロモブチド

高い効果が速く発現し、長期間持続します。
後発のノビエの発生も抑制します。
SU抵抗性雑草にも優れた効果を示します。
難防除多年生雑草の発生を抑制します。
水稻への安全性が高い薬剤です。

適用雑草の範囲及び使用方法

バッヂリLX 1キロ粒剤 ■有効成分(一般名)ピラクロニル:2.0% オキサジクロメホン:0.4% イマゾスルフロン:0.9% プロモブチド:9.0% ■人畜毒性:普通物* ■農林水産省登録 第23521号

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	総使用回数
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	田植同時散布機で施用	本剤 1回
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで		湛水散布 又は 無人航空機による散布	イマゾスルフロン剤 2回 オキサジクロメホン剤 2回 ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回
直播水稻	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稻1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			

雑草名	散布適期
ミズガヤツリ	3葉期まで
ホタルイ	ただし、直播水稻は2葉期まで
ヘラオモダカ	2葉期まで
ウリカワ	ただし、直播水稻は発生始期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前～再生始期まで
オモダカ、クログワイ	発生前～発生始期まで
コウキヤガラ	発生始期まで
シズイ	草丈3cmまで
ナガエツルネグイトウ	再生始期
アオミドロ・藻類による表層はく離	発生前

バッヂリLX フロアブル ■有効成分(一般名)ピラクロニル:3.7% オキサジクロメホン:0.56% イマゾスルフロン:1.7% プロモブチド:16.3% ■人畜毒性:普通物* ■農林水産省登録 第23519号

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ セリ、エゾノサヤヌカグサ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ、シズイ	移植時	500ml/10a	田植同時散布機で施用	本剤 1回
		移植直後～ ノビエ2.5葉期ただし、 移植後30日まで		原液湛水散布、 水口施用又は 無人航空機による滴下	イマゾスルフロン剤 2回 オキサジクロメホン剤 2回 ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回
直播水稻	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稻1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで		原液湛水散布又は 無人航空機による滴下	ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回

雑草名	散布適期
ミズガヤツリ	3葉期まで
ホタルイ	ただし、直播水稻は2葉期まで
ヘラオモダカ、ウリカワ エゾノサヤヌカグサ	2葉期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前～再生始期まで
オモダカ、クログワイ	発生前～発生始期まで
コウキヤガラ	発生始期まで
シズイ	草丈3cmまで

バッヂリLX ジャンボ ■有効成分(一般名)ピラクロニル:5.0% オキサジクロメホン:0.75% イマゾスルフロン:2.25% プロモブチド:22.5% ■人畜毒性:普通物* ■農林水産省登録 第23520号

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ セリ、オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、シズイ	移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (400g) /10a	水田に小包装 (パック) のまま 投げ入れる	本剤 1回
					イマゾスルフロン剤 2回 オキサジクロメホン剤 2回 ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回
直播水稻	水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ、セリ	稻1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			

雑草名	散布適期
ホタルイ	2葉期まで
ヘラオモダカ、ウリカワ ミズガヤツリ	
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前～再生始期まで
オモダカ、クログワイ	発生前～発生始期まで
コウキヤガラ	発生始期まで
シズイ	草丈3cmまで

バッヂリLX 400FG ■有効成分(一般名)ピラクロニル:5.0% オキサジクロメホン:0.75% イマゾスルフロン:2.25% プロモブチド:22.5% ■人畜毒性:普通物* ■農林水産省登録 第24234号

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用方法	総使用回数
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	400g /10a	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用 又は 無人航空機による散布	本剤 1回
					イマゾスルフロン剤 2回 オキサジクロメホン剤 2回 ピラクロニル剤 2回 プロモブチド剤 2回
直播水稻	一年生雑草 マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、セリ	稻1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			

雑草名	散布適期
ホタルイ、ヘラオモダカ ウリカワ、ミズガヤツリ	2葉期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前～再生始期まで
オモダカ、クログワイ	発生前～発生始期まで
コウキヤガラ	発生始期まで
シズイ	草丈3cmまで

*毒物及び劇物に該当しないものを指す

使用上の注意事項（一部抜粋）

4製剤に共通する注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意してください。
- 軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大さな水田（減水深2cm以上）では葉害が発生するおそれがあるので使用を避けください。
- 直噴式水稻栽培では、稻の根が露出する条件では葉害が生じるおそれがあるので注意してください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代わり、均平作業および植え付けはていねいに行ってください。また、未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 本剤はその殺草特性から、いくぐん、せんごん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いくぐ栽培予定水田では使用しないでください。
- 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の灌水に用いていいでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法

★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★本剤は小児の手の届くところには置かないでください。★空袋・空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、飛流しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管に注意してください。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密封・密栓し、直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

●藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な葉害や効果不足を生じることがあるので使用をさせてください。

- 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保持し、散布後7日間は落水、かけ流ししないでください。
- 1キロ粒剤・フロアブルに共通する注意事項

●散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保持し、散布後7日間は落水、かけ流ししないでください。

- 畠面に密栓し、直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保持し、散布後7日間は落水、かけ流ししないでください。

●畠面に密栓し、直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

してください。

ジャンボの注意事項

- 本剤は小包装（パック）のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破壊するがないようにしてください。
- 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、ぬれた手で触らないでください。

FGの注意事項

- 湛水散布の場合は田面に散布し、また湛水周縁散布の場合は水田周縁部に帯状に散布してください。
- 水口施用の場合は、あらかじめ田面が露出していないよう水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態に達したときに必ず水を止め、田面水があふれ出ないよう注意してください。水口に対して向かい風が吹いている場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用はさせてください。

本資料の記載内容は2023年10月現在の登録内容に基づいています。



JAグループ

農 協

全 農

経 済 連

JAは登録商標 第4702318号



協友アグリ株式会社

東京都中央区日本橋小網町6-1

<https://www.kyoyu-agri.co.jp>

2023年10月作成CRP1202310005